

農作物技術情報 第7号の要約

令和元年 9月25日発行

岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作物	技術の要約
水稲	技術対策 籾の黄化状況により刈取適期を判定し、刈取り作業を進めること。 倒伏した圃場では、作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努める。 日没が早まる時期なので、作業は計画的に進め、安全な農作業を心掛ける。
畑作物	生育状況 ：大豆の登熟は順調で、子実の肥大も良好である。大雨の影響で茎疫病や黒根腐病の発生が見られる。 技術対策 大豆 ：雑草や青立ち株の抜き取り、コンバインの整備等、収穫作業にむけた準備を整える。 小麦 ：越冬前に十分な生育量が確保できるよう、適期播種を行う。圃場条件が整わない場合は、適期を逃しても無理な播種作業を行わず、播種量を増やして対応する。
野菜	生育状況 ：露地きゅうりは成り疲れや気温低下の影響と病害の発生により、収穫終了となる圃場が増えている。トマトやピーマンは高温時の落花や気温の低下に伴い収量の減少や障害果の発生が見られている。雨よけほうれんそう、ねぎ、キャベツ、レタスは概ね順調に生育しているが、ねぎの葉枯病、キャベツのべと病などの病害の発生が見られる。 技術対策 台風対策 ：排水対策や施設の保守点検など、対策を徹底する。 露地きゅうり ：病葉や古葉などの摘葉を中心とした草勢維持のための管理とする。栽培終了後は次年度へ向けた準備として資材消毒を行うほか、キュウリホモプシス根腐病の残さ診断を積極的に行う。 施設果菜類 ：今後も気象条件に応じたハウスの適切な温湿度管理に努めるとともに、障害果の発生防止対策を行う。灰色かび病等の病害の予防を徹底する。 雨よけほうれんそう ：年内収穫用にもう1作播種し、温度管理に加え、病虫害防除を徹底する。寒締め栽培では、品種の特性に合わせ適期に播種し、温度管理と病虫害防除を徹底する。 露地葉菜類 ：ねぎは計画的な土寄せと適期防除を行う。キャベツ、レタスは適期収穫に努め、使い終わったマルチや病害で収穫しなかった株は適切に処理する。促成アスパラガスは5℃以下の低温遭遇時間を参考にしながら適期に掘り上げを行う。
花き	生育状況 ：りんどうの彼岸需要期用品種は平年並～やや遅い開花。同じく小ぎくも平年並～やや遅い開花。病虫害については、りんどうで葉枯病と黒斑病、小ぎくでハダニ類とアブラムシ類がみられる。 技術対策 りんどう ：今後も花腐菌核病やアブラムシ類等の病虫害防除を徹底する。 小ぎく ：収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保する。
果樹	生育状況 ：りんごの果実生育（横径）は、県平均で平年・前年並みと概ね順調。中生種の「ジョナゴールド」の熟度の進みは平年並からやや遅め。 技術対策 りんご ：中生品種の収穫時期となるので、硬度を重視した適期収穫とすぐりもぎを徹底する。10月は台風シーズンなので、気象情報に注意し、事前対策の徹底を図る。
畜産	生育状況 ：3番牧草の生育は平年並～やや遅い、飼料用とうもろこしは収穫が始まっている。生育は7月中旬までの遅れを天候回復により挽回し、一部の地域を除き平年並。 技術情報 牧草 ：刈り取り危険帯の時期が近づいている。この時期は収穫や施肥を避ける。 飼料用とうもろこし ：収穫が始まっている。刈り遅れないよう、収穫を速やかに進める。 獣害対策用電気牧柵 ：次年度設置のことを考えて撤収する。 家畜(牛) ：秋に増える牛の蹄病に注意する。

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <https://i-agri.net>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用：使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○9月15日～11月15日 秋の農作業安全月間「夕暮れ時 もう少しと思う心に ブレーキを」

次号は令和元年10月31日(木)発行の予定です